



# 家族への想い ～医師として働きながら～

シリアやイラクなどの情勢悪化により、多くの人々が周辺の国々へ避難しています。私が支援に参加したギリシャにも難民・避難民のキャンプが多数存在していました。キャンプには、老いた人もいれば若者もいました。

あるシリア人医師は、彼自身も避難民として難民キャンプで生活しながら、キャンプに住む人々の健康を守っていました。彼の奥さんと娘はすでにドイツに避難しており、彼は「きっといつかドイツに行って一緒に住むのだ。」と話してくれました。私自身の家族への思いとも重なり、彼がはやく家族と一緒に暮らせるようになってほしいと、強く思ったことを覚えています。先日、彼が無事にドイツで家族と暮らし始めたことを人づてに知ることができました。

シリアには、家族と離れて暮らすことを余儀なくされている人々が大勢います。みんな、私達と同じように、自分の国で“普通”の生活をしていました。そんな人たちが、非日常的な生活をせざるを得ない状況に追い込まれています。できることは限られていますが、少しでも力になればと思います。

中東地域紛争犠牲者支援事業  
医師 吉見祐輔